

「安全で快適な自転車利用環境の向上に関する委員会」

環境と交通→自転車から見えてくるもの→ 「まちづくり」として自転車交通を考える



令和5年9月12日

地球の友・金沢
自転車利用環境向上会議全国委員会
会長 三国 成子

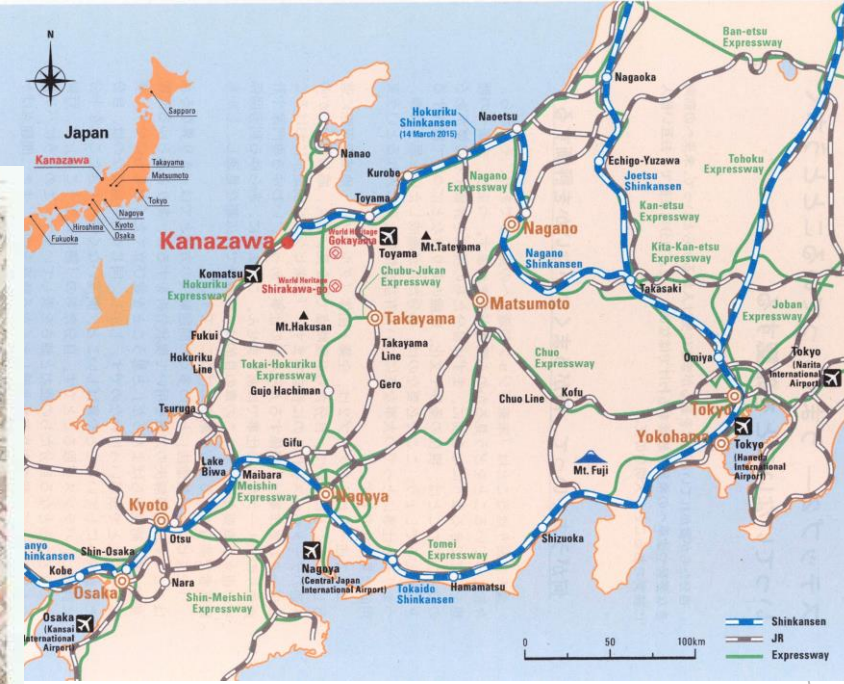
「街頭指導マニュアル」

ダウンロードは ➡

<https://www.hrr.mlit.go.jp/kanazawa/douro/bicycle.co/shidou/>

石川県金沢市

加賀百万石城下町、戦災を免れたため、まちなかは道が狭い



交通とまちづくりについて

- 1, 金沢市内で取り組んできたこと
- : 自転車・歩行者安全から改善へ

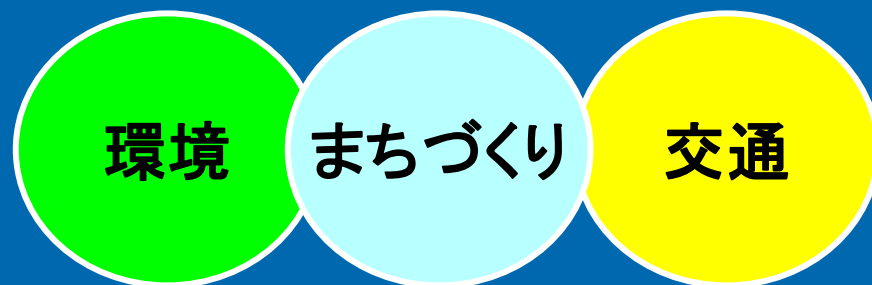
人と人の連携、住民と行政機関の連携、人中心の交通環境

2, まとめ 地方都市の交通環境について

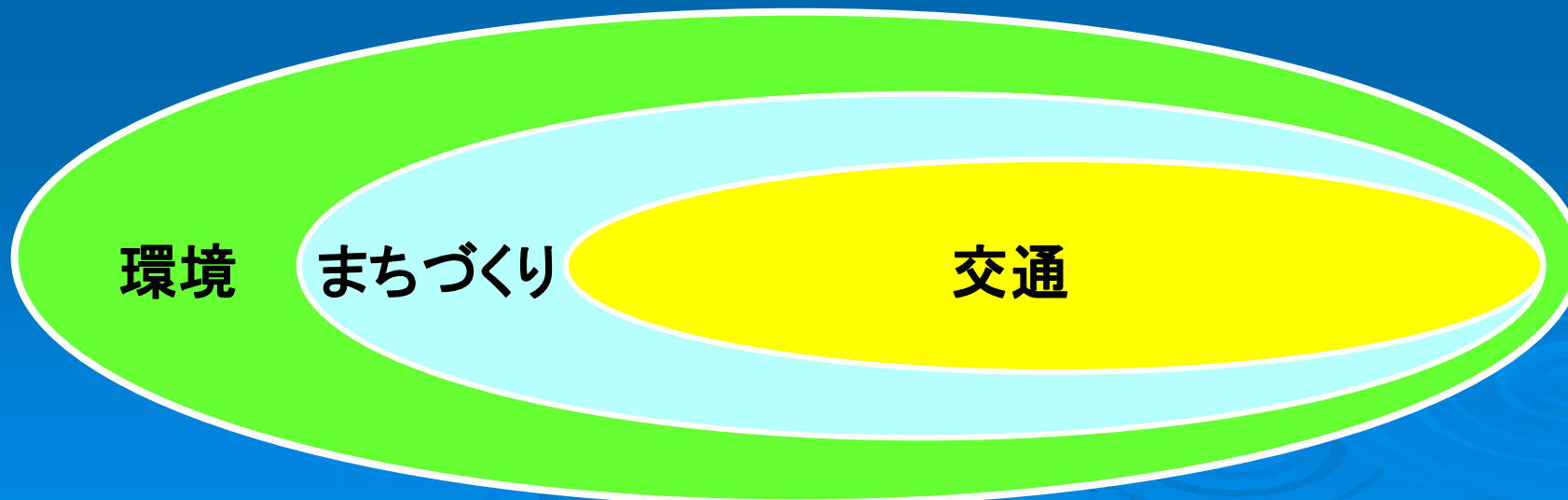
- 3, 自転車利用環境向上会議

交通に対する考え方の違い

日本の場合



ヨーロッパ(ドイツ・スイス・デンマーク)の場合



1. 自転車・歩行者安全マップの出発点

1997年のドイツ・スイス・オランダ訪問により
交通と環境に密接なつながりがあることに気づく

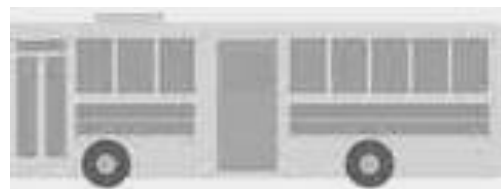


金沢市内



現在の日本の
交通のイメージ

車道

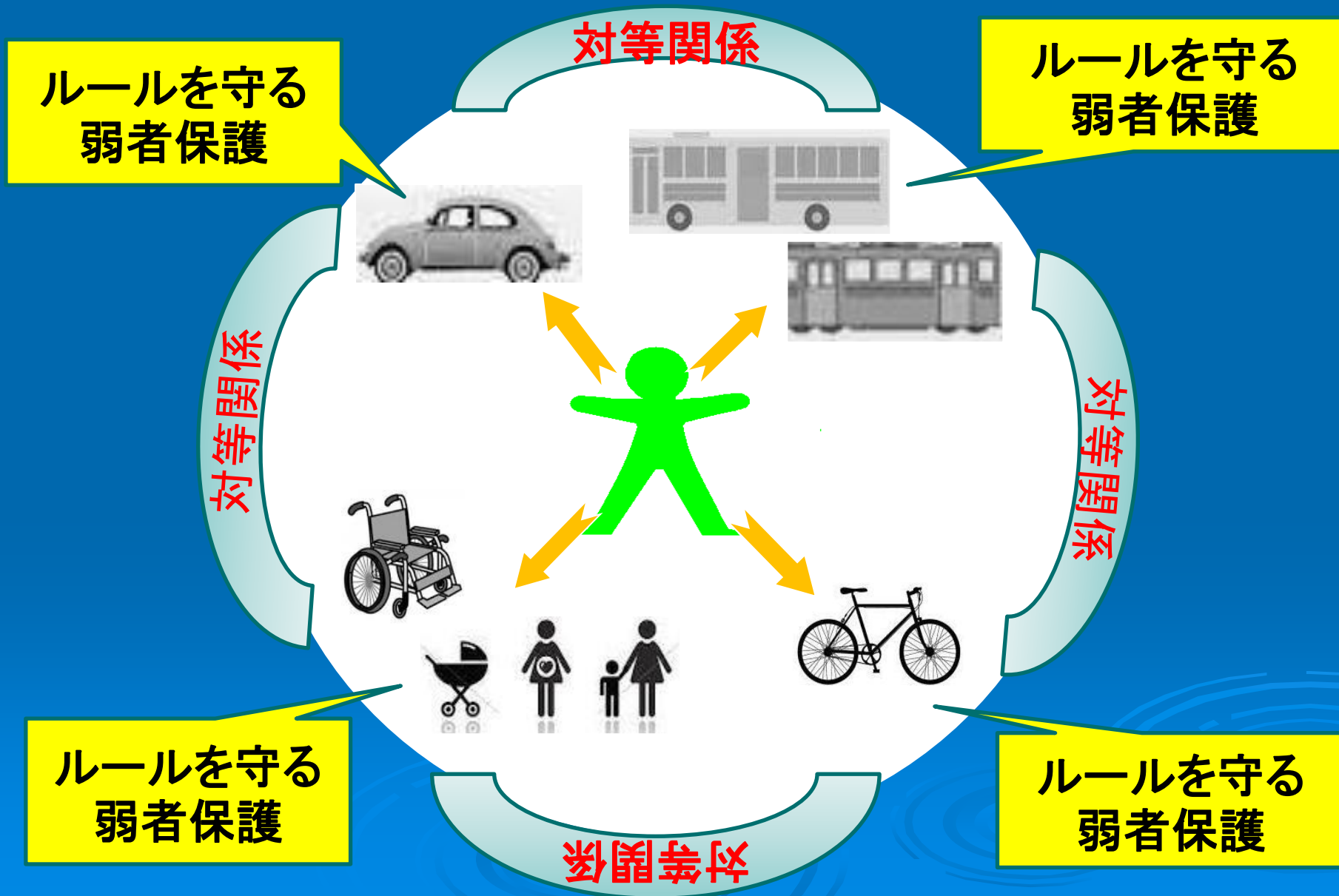


歩道



自転車は軽車両
(車の仲間)

人が、目的に応じて不自由なく交通手段を選択でき
安全に利用しやすい交通環境が基本



2.「自転車・歩行者安全マップ」の制作過程

- 目的
- 住民参加のもと、安心して利用できる歩行者・自転車路を確保する
 - 調査やマップの制作を通して、校区内の道路環境や交通安全対策に関心を持ってもらう



校下の道路状況を調査(児童・生徒)
一人一枚の白地図に通学や生活に使っている道路を安全・危険・快適・危険な交差点に色分けし、その理由も書く



(PTAによる)調査結果の集計



完成した地図を見て安全な道を確認める



小中学生にマップを贈呈



贈呈されたマップを見る
子どもたち



行政との意見交換会

現地調査をもとに、地元
住民・国・県・市の道路管
理者と警察が改善策に
ついて協議



改善

調査によって
得られた小中
学生の意見で、
通学路の環境
が改善

狭い歩道の植樹帯が障害



植樹帯を取り除き歩行空間を確保

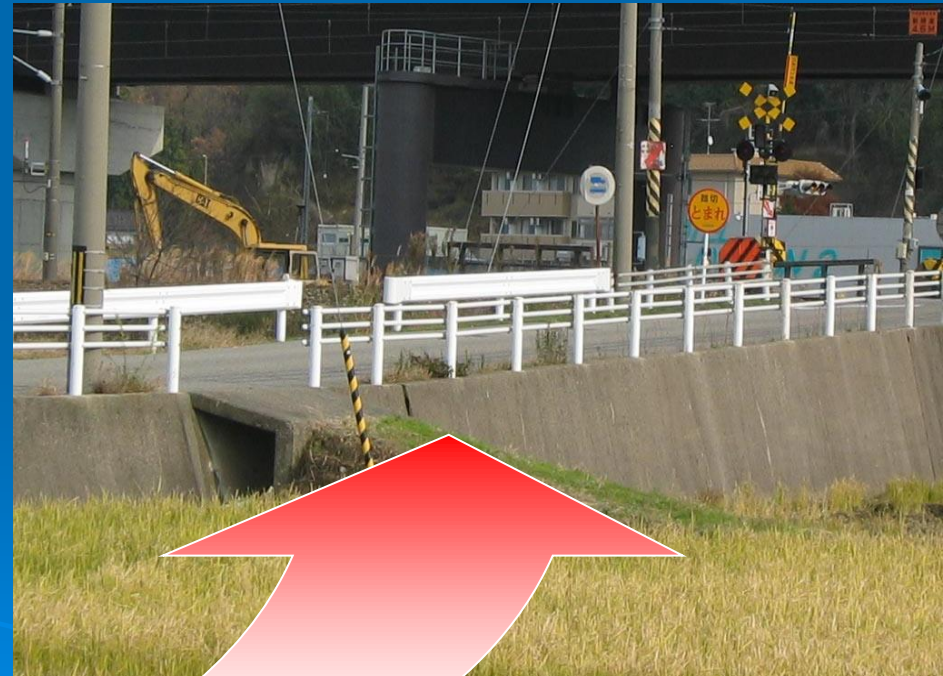
改善例 ①JR線観法寺踏切

Before

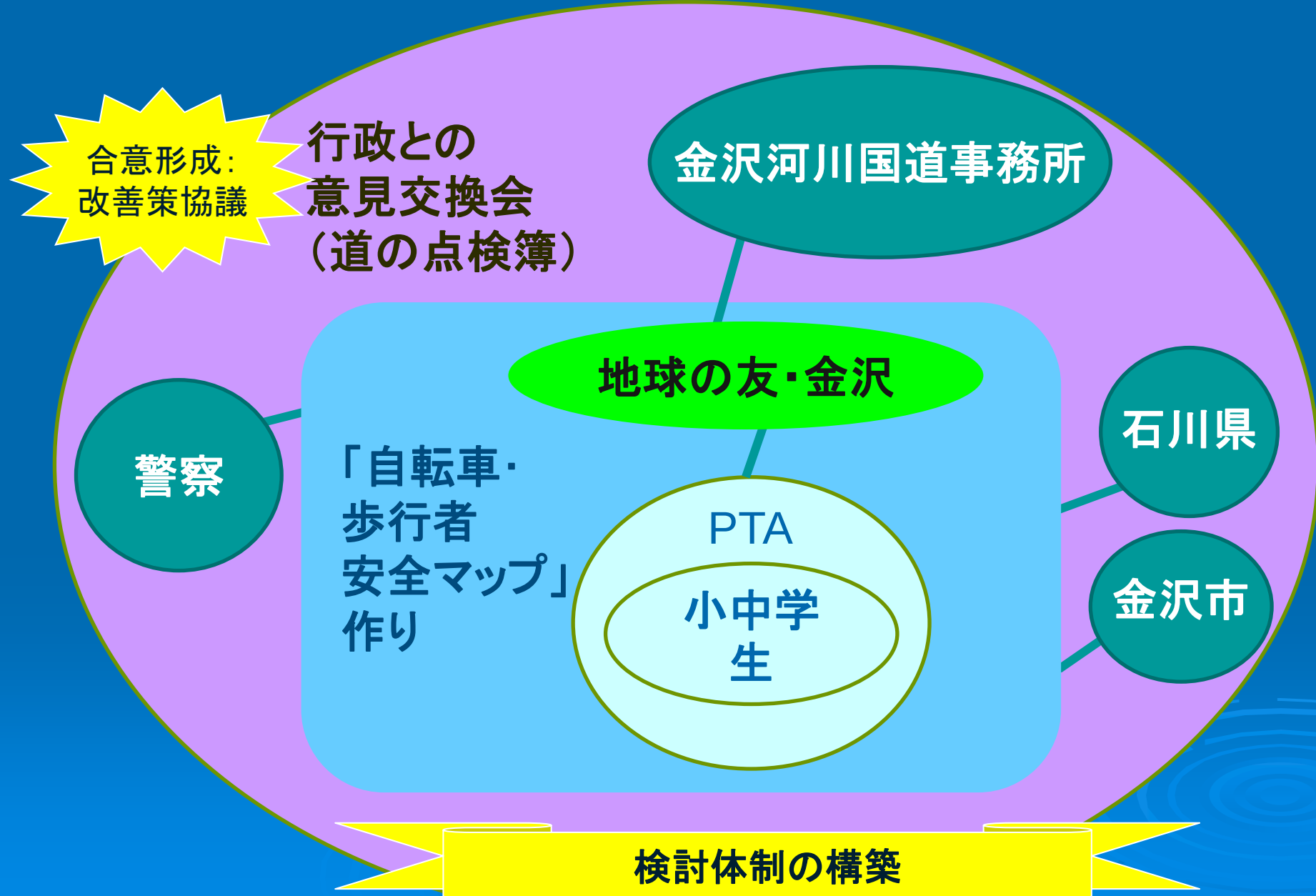


After

ガードレールの新設を行った



住民参加での協働の取り組み



3. 私たち(地球の友・金沢)の役割

①地域住民
と行政機関と
の橋渡し

コミュニケーション



事例:
道の点検簿

②現場の状況
を全体的視点
に立って見る

A町



B町

事例:
警察の協力・
事故調査

③交通弱者の視点に立って



事例:
自転車・歩行者
安全マップ

④取り組みの継続性

検討体制の継続



ニーズ：問題の再確認

- ・歩道が狭い
- ・自転車、歩行者が多い
- ・小学生と自転車との接触事故の危険

2004年 改善策提案

1. 歩道の拡張、及び電柱の地中化による歩道の確保
2. バスレーンを自転車と共有する

担当部局が回答した3年以内の対策可能案

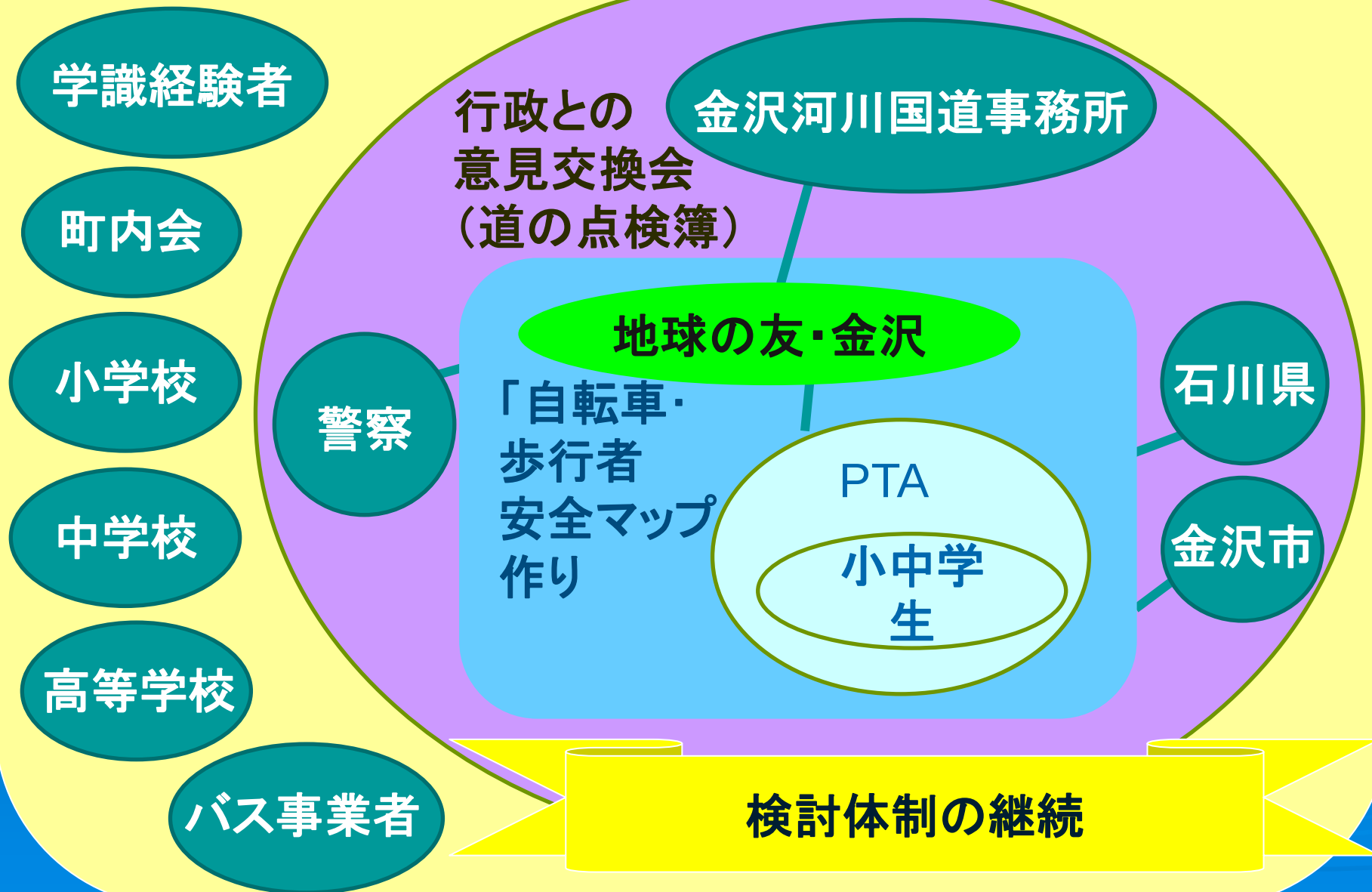
国：山側環状道路共用後、交通量を調査し、対策を検討する

警察：協議中

(道の点検簿より)

2007年 国道159号線での社会実験(バスレーン自転車走行指導帯)

国道159号線交通安全対策協議会（社会実験） （現在国道359号線）



社会実験に向けて現状把握

実験前の朝の通勤通学風景



ニーズ:問題の再確認

歩道も車道も、右も左も関係なく無秩序に走る
自転車



改善前

国道359号線(旧159号線)

日本で最初のバスと自転車の共用レーン

2007年10月 バスレーンに自転車走行指導帯設置



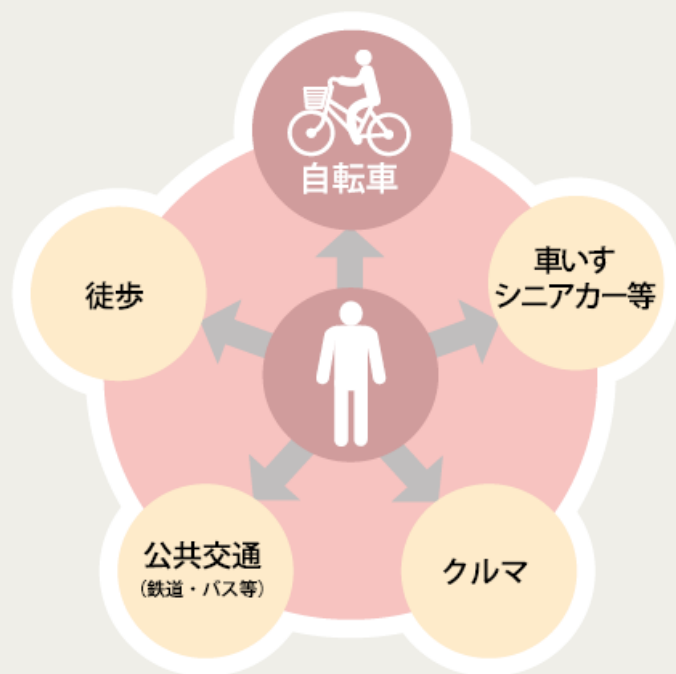
自転車こわい！

クルマも自転車も歩行者も！
安全性が高まった

「金沢自転車ネットワーク協議会」とは？

基本理念 人中心の交通体系

- 自転車通行空間整備は、『人中心の交通体系』を支える一つの手段であることを前提とし、人があらゆる交通手段を安全・快適に利用できるよう、自転車通行空間整備の視点から、道路空間のあり方を検討。



構成 実務者レベルでの構成

- 学識者、道路管理者（国・県・市）、警察（石川県警察本部・所轄警察署）により構成。
- 面的に連続した自転車通行空間の整備により、歩行者・自転車・クルマのそれぞれが、安全に安心して通行できる道路空間の創出を目指す。



皆さんのご協力で**街頭指導**（毎月15日継続中）



2020年
(R2)の整備
事例より

金沢における自転車通行空間の整備効果事例

2020年(R2)

- 金沢大学周辺では、多くの大学生や学校関係者が通行
- 自転車通行空間が整備されたことで車道左側通行が増加



車道左側通行が増加

■ 車道左側通行 ■ 車道右側通行 ■ 歩道左側通行 ■ 歩道右側通行

断面1



断面2



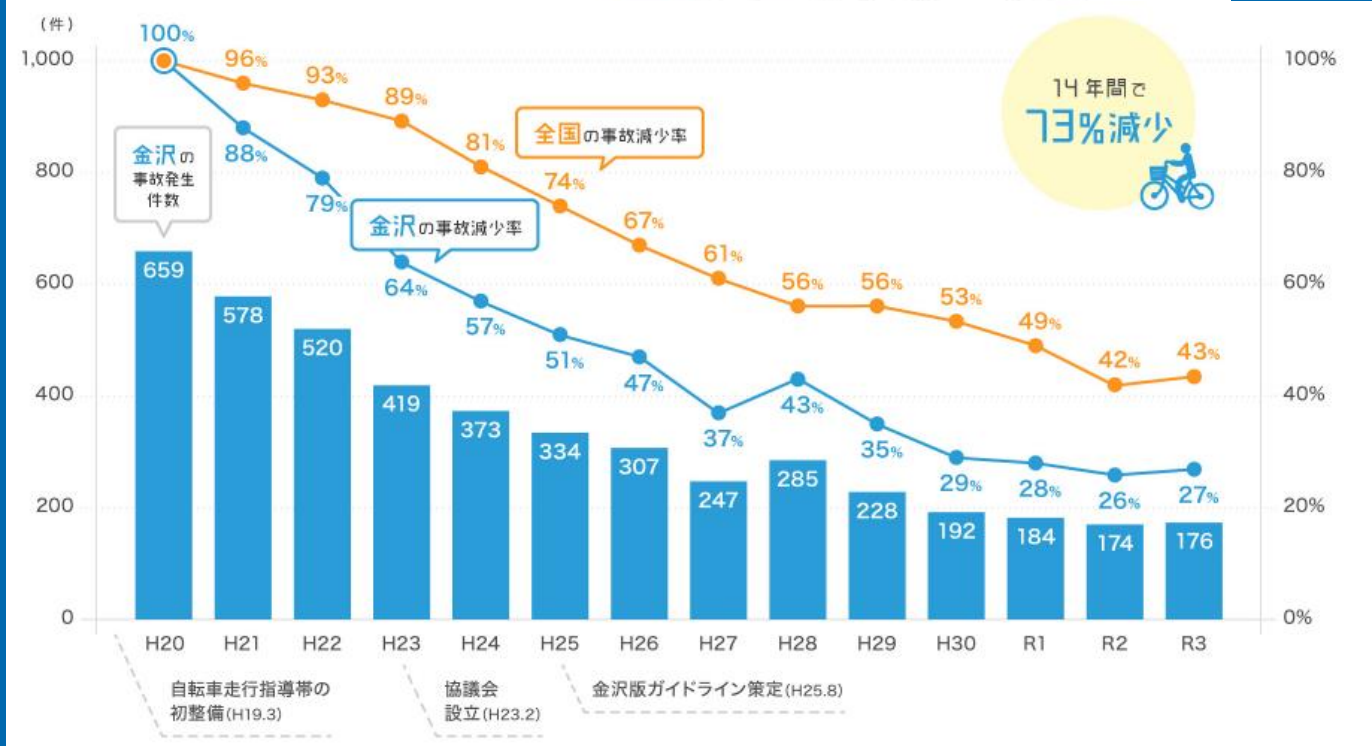
断面3



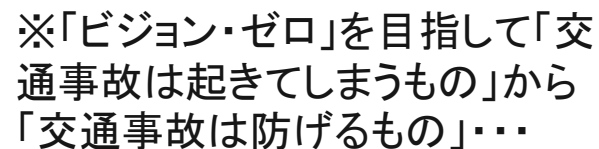
金沢市における自転車事故の大幅な減少

成果

良い仕事



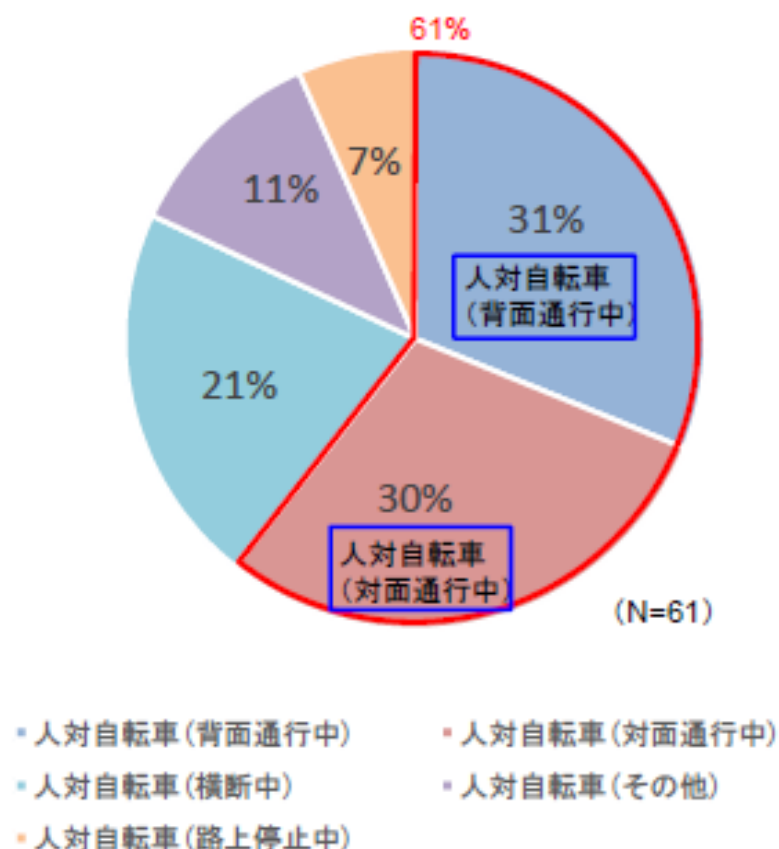
出典:街頭指導マニュアル



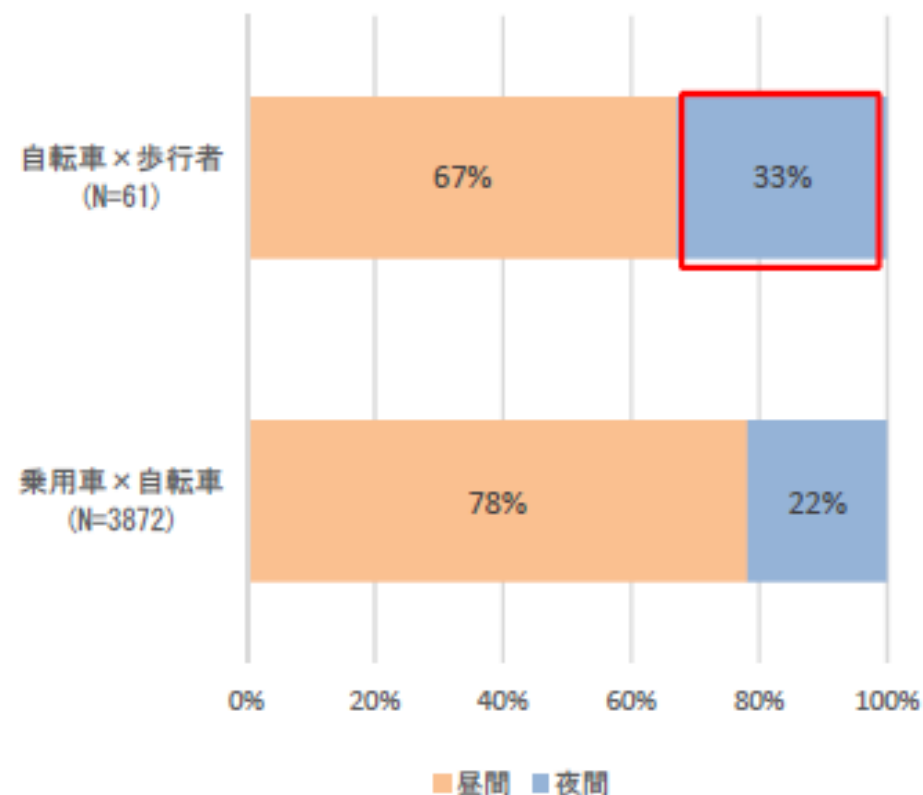
- 定期的な自転車関連事故の発生状況の確認、対策検討

- 事故類型を見ると、「背面通行中」と「対面通行中」で約6割を占めている。
- 昼夜別で乗用車対自転車事故と比較すると「夜間」の割合が高い。

◇自転車対歩行者事故の事故類型



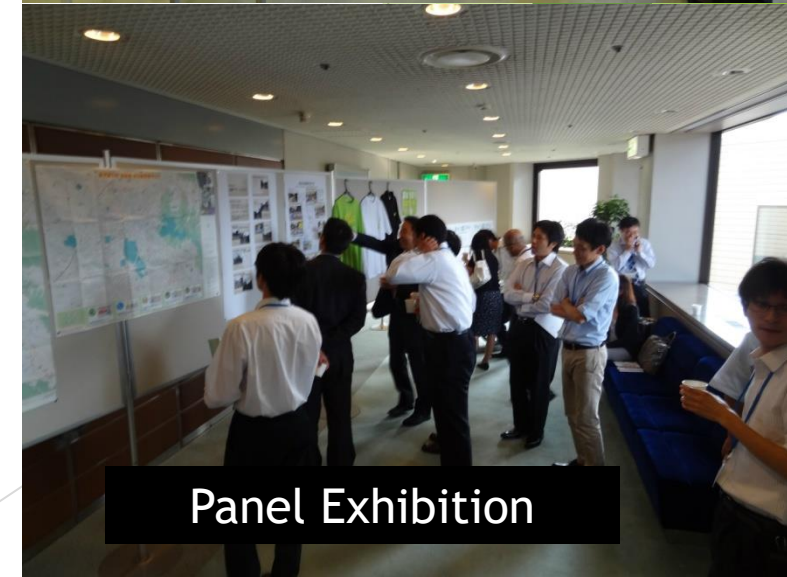
◇昼夜別(乗用車対自転車事故との比較)



金沢自転車ネットワーク協議会勉強会

第1回

「自転車利用環境向上会議2012 in 金沢」





Japan Cycling Congress

Vision
自転車を通じて、人々の「幸せ」と「生活の質の向上」を実現する

- 「自転車利用環境向上会議」（Japan Cycling Congress：JCC）は、わが国の自転車利用環境の向上と人中心の道路交通環境づくりの推進による人々の「幸せ」と「生活の質の向上」を目指し、全国各地の自転車関連の取り組みを広く発信・共有するとともに、具体的な自転車まちづくりにつなげていくための全国会議です。